

公益社団法人私立大学情報教育協会
令和3年度第4回基本調査委員会 議事概要

- I. 日時 : 令和3年3月17日(木) 10時から12時
II. 場所 : 私情協事務局 (ZOOMによるTV会議)
III. 出席者 : 山名担当理事、井上委員、今井委員、高木委員、片岡委員、今泉アドバイザー
 端事務局長、森下主幹
IV. 資料
 1. 私立大学教員授業改調査 回答状況
 2. 私立大学教員授業改調査の中間集計の進め方について

V. 議事内容

1. 私立大学教員授業改調査の回答状況 (3月16日現在)
回答の締切りを3月18日に延長しているが3月16時点の調査回答は以下の状況である。
- ・ 大学は、193大学の内、145大学回答(75%)、5,580人回答(調査対象44,694人)回答率は12.5%
 - ・ 短期大学は、47短大の内、28短大回答(60%)、164人回答(調査対象542人)回答率30.3%
- 締切は3月18日であるが、ほぼこの回答率で終了の見込みであることが報告された。
2. 今後の集計・報告のスケジュールについて
以下のスケジュールで進める事を確認した・
- ①4月13日 中間集計結果の確認(第1回委員会)
4月中旬～下旬 必要があれば(第2回委員会)
 - ②5月16日(月) 中間集計結果の報告(第96回理事会)
 - ③5月31日(火) 中間集計結果の報告(第34回定時総会)
 - ④6月中旬～下旬 ICT活用の顕著な好事例の抽出(第3回委員会)
 - ⑤7月上旬 追跡調査回答依頼の協力願い送信
 - ⑥9月中旬 追跡調査回答結果及び中間報告の解析(第4回委員会)
 - ⑦11月上旬 私立大学授業改善白書の最終確認(第5回委員会)
 - ⑧11月12日(土) 私立大学授業改善白書の報告(第99回理事会)
 - ⑨11月30日(水) 私立大学授業改善白書の報告(第35回臨時総会)
3. 集計方法
- 3.1 中間集計と解析
以下のように進めることにした。
- ① 中間集計では、各設問について記述を除く項目を対象に集計する。
 - ② 1の「学修者本位の教育の実現を目指す対応・取組み」は、(10)の「学修者本位の教育、学修者の立場に配慮した取組みの重要性」について、「非常に意識している、意識している」と「あまり意識していない、意識していない」の2つのグループに分ける。その上で(1)～(9)の取組みについて、どのような取組みが意識されており、どのような取組みが意識されていないのか、大学は「分野別と全体」、短期大学は「全体」で集計する。
- そのことにより、大学は分野による取組みの特徴や傾向を把握し、課題を洗い出す。
なお、(11)は記述なので「数」だけ集計し、中間集計後に整理する。

- ③ 2の「ポストコロナ社会における学修の質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい教育の対応」は、(11)の「ポストコロナ社会における学修の質の向上を目指した対面と遠隔(ICT)を組み合わせた新しい教育の対応」について、「非常に考慮している、考慮している」と「あまり考慮していない、考慮していない」の2つのグループに分ける。

その上で(1)~(10)の具体的な取組みについて、どのような取組みが考慮されており、どのような取組みが考慮されていないのか、大学は「分野別と全体」、短期大学は「全体」で集計する。

そのことにより、大学は分野による取組みの特徴や傾向を把握し、課題を洗い出す。なお、(12)は記述なので「数」だけ集計し、中間集計後に整理する。

- ④ 1の(10)「学習者本位の教育、学修者の立場に配慮した取り組みの重要性」で「非常に意識している、意識している」と「あまり意識していない、意識していない」に回答したグループと、2の(11)「ポストコロナ社会における学修の質の向上を目指した対面と遠隔(ICT)を組み合わせた新しい教育の対応」で、「非常に考慮している、考慮している」と「あまり考慮していない、考慮していない」に回答のグループとのクロス集計を2の(1)~(10)に行い、大学は「分野別と全体」、短期大学は「全体」で集計する。

そのことにより、対面と遠隔を組み合わせた新しい教育の対応について、分野でどのようなスタイルのハイブリッド授業をイメージしているのか、傾向を把握するとともに、課題を洗い出す。

- ⑤ 「学修の成果を学修者が実感できる教学マネジメントの確立に向けた取組み状況」は、(1)~(7)の取組み状況について、大学は「分野別と全体」、短期大学は「全体」で集計する。なお、(8)は記述なので「数」だけ集計し、中間集計後に整理する。

その上で、1の(1)『シラバスや授業で「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にする。』と回答した教員が、実際に教学マネジメントの確立に向けた取組みをしているかを分析するため、3の(1)「学位授与方針や教育課程の編成と担当授業との関係性や整合性について」、(2)「担当授業の達成状況を点検・評価する取組み」、(3)「学修ポートフォリオや授業評価アンケートの活用」、(5)「教育改善に向けたオープンな意見交換(学生・教職員・学外関係者)」、(7)「教育の質向上のためのFDの充実・高度化、遠隔(ICT)による研修機会の拡大、研修方法や内容等の検討」とクロス集計を行う。

3. 2中間集計後の白書作成

- ① 現在の授業でICTを活用して顕著な効果をあげている事例があれば、授業科目名、授業内容・方法・効果の概要を分野別に大学、短期大学の回答を整理する。
- ② その上で、以下のような取組みに特徴がみられる好事例を抽出する。
- *ポートフォリオ等で理解度や成長度を把握、学修管理システム(LMS)等で個別に教育・学修指導を行う
 - *TA やSA による学修支援を遠隔(ICT)で行う
 - *教え合い、学び合う機会をLMS等で提供する
 - *卒業後、社会人として役に立った授業体験を遠隔(ICT)で紹介し、学びの重要性を気づかせる
 - *学修者(海外留学生、障害者等)の環境に応じて、遠隔(ICT)授業を行う

- *事前学修を遠隔(ICT)で行い、対面で意見交換を行う反転授業を充実する
 - *企業・地域社会などの課題分析を遠隔(ICT)で行い、対面で深い議論を行う問題発見・課題解決型学修を推進する
 - *SDGs等未知の問題解決の演習は対面で行い、時間と場所の制約を受けない意見交換・解決策の発表・評価は遠隔(ICT)で推進する
 - *対面と遠隔(ICT)でグローバルな国際連携教育を推進する。
 - *デジタル技術(VR、シュミレータ等)で実験・実習・実技の疑似体験を訓練し、対面で安全な実体験教育を実施する
 - *学部・学際横断的な教育の推進を目指した、教育プログラムの編成、授業科目の統合・調整に参加している
- ③ 上記の観点以外に他大学の参考となる事例も抽出する。
 - ④ ②、③の方針に沿って、追跡調査の依頼を行い、事務局で編集し、委員会で最終点検を行う。
 - ⑤ 5年先の授業でICTを活用して顕著な効果が期待できる計画が考えられる場合も同様に概要を分野別に大学、短期大学の回答を整理する。
 - ⑥ 個別の大学、短期大学ごとに、中間集計で行った集計を行い、回答大学に結果をフィードバックする。委員会で検討し・作成した内容

4. 中間集計と解析について

上記方針で中間集計を行い、その結果を令和4年度第1回委員会で確認し、必要があれば月に第2回委員会を開催し中間集計を取りまとめ、第96回理事会(5月16日)に報告する。

5. 次回委員会

令和4年4月13日 17:00 とする。